

4 津波被害想定

津波被害想定は、表 II - 4に示す調査項目・被害想定手法によって、想定する津波ごとに実施する。

想定結果は報告書にまとめるほか、一覧表などを市町村別津波浸水想定区域図にも掲載し、津波災害のイメージが把握できるよう工夫する。また、被害想定調査に用いた基礎データについては、GIS データとして整理し、市町村などで条件を変えた被害想定を実施する場合にも有効に活用できるものとする。また、調査にあたっては中央防災会議専門調査会の調査データおよび手法を参考にする。

表 II - 4 被害想定項目および手法

調査項目	被害想定手法	評価単位	データ入手方法	入力項目
				出力項目
防潮ライン評価・防潮施設被害	津波水位および流速の時系列変化から、防潮ラインおよび防潮施設について以下の評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 最大波圧(破壊力) 越流の有無 越流開始時間 被災危険度(構造、築造年代、波圧、越流、引き波による越流、流速等から危険度評価区分判定を行う) 	-	津波シミュレーションに用いる地形データおよび構造物データを用いる。 構造物の諸元(構造、築造年代等)については、各種台帳を用いて整理する。また、築造年代については管理者にヒアリングする。	防潮堤位置 天端高 構造、築造年代 流速・水位 最大波圧 越流開始時間 越流量 危険度判定
建物(住宅)被害	津波の最大浸水深に対する建物被害程度を設定し、建物全半壊棟数を算出する。漂流物が多い地域と通常の地域別に、被害発生浸水深を設定する。	48m メッシュ	地域メッシュ統計による世帯数から木造建物棟数を算出し、地形図等から読み取ったメッシュごとの建物密度を用いて、メッシュに配分する。	木造建物棟数 津波最大浸水深 木造建物全半壊棟数
人的被害	最大浸水深 1m 以上のエリア内の滞留人口を津波影響人口とする。これをもとに、逃げ遅れによる死者数を算定する。普通地震と津波地震の場合を想定し、さらに住民の避難意識が高い場合と低い場合を想定する。負傷者は、過去の津波の死者と負傷者の割合より算定する。	48m メッシュ	平成 12 年度の国勢調査結果および観光入込客数調査結果を使用する。 建物密度に応じて人口を配分する。海水浴場については観光客数を考慮して海水浴場に対応するメッシュに人口を配分する。	人口分布 津波到達時刻 津波最大浸水深 浸水域内人口 津波影響人口 死者数 負傷者数
交通支障	道路と鉄道を対象とする。道路は、自動車が通行可能な路線を対象とする。48m メッシュごとの津波浸水深と道路・鉄道分布を重ね合わせて、浸水域内の道路・鉄道延長を求める。 また、一部でも津波の浸水域に入る区間については、漂流物や津波再来の危険性等により直後の使用が困難と判定し、道路については交差点間を単位として、鉄道については駅間を単位として支障延長を算出する。	48m メッシュ 路線別 交差点間の区間別 鉄道駅間別	地形図から沿岸の低地を通過する路線を抽出する。	自動車通行道路網 鉄道線路網 津波最大浸水深 浸水域内延長 支障区間 支障延長